

# 冬季スポーツでまちづくり

なよろ  
名寄市長(北海道) **加藤剛士**  
Takeshi Katō



## わがまち名寄市

北海道に位置する名寄市。夏はプラス30℃、冬はマイナス30℃、豊かな自然環境を生かし、日本一の生産量を誇る「もち米」をはじめおいしい農産品をはぐくんでいます。現在は、「冬季スポーツ拠点化」を目標に掲げ、本市の持つ「雪質日本一」という厳しくも恵まれた冬の環境に加え、ジャンプ台、スキー場、クロスカントリーコース、屋内カーリングホールなどの施設群を有効に活用するとともに、市立病院、市立大学、自衛隊といった地域資源と連携したトレーニング環境づくりを進めています。

まずは平成28年度、リレハンメル冬季五輪ノルディック複合の金メダリストの阿部雅



全国規模の冬季スポーツ大会を開催



市民参加型のユニークな取り組みの一つ「スノーマラソン」

司氏を市の職員に迎え、全国規模の冬季ジュニアスポーツ大会誘致に成功するとともに、ジュニアなど国内合宿に加え、諸外国の冬季スポーツナショナルチームの誘致にも成功し、大会合宿宿泊者数がかつ3年で3倍強の伸びを示しています。市民参加型のノルディックウォーキングやナイトラン、スノーマラソンなどのユニークな取り組みや、学校授業における走力など基礎体力向上のカリキュラム導入など市民参加型の健康増進事業、そして日本一の生産量を誇る「もち米」を使ったアスリート食品の開発など、関連産業の芽も少しずつ出始めています。

## 冬季スポーツ拠点化とフィンランド視察

この取り組みに、市民がさらに、そして

主体的に参画していただきたい、そうした思いから、ノルディックスキー先進地であるフィンランドを視察すべく、市民使節団を結成しました。私が団長で、商工会議所、観光協会、J・C・YEGといった若手経済人、旅館組合、大学教授、女性代表、そしてスキー指導者とジュニアアスリート、総勢20名で、延べ7日間のフィンランド視察研修となりました。

視察の目玉は「ボカティ・トレーニングセンター」。ノルディックスキーと教育にフォーカスした同センターは、設立した1945年には3人の組織でしたが、現在は80人を超える職員を雇用し、さまざまなトレーニングメニューに対応したハード・ソフトの環境を整えています。長大なクロスカントリーコース、ジャンプ台はもちろん、ローラーズキーや陸上競技、温水プールなど、夏場でもトレーニングできる環境、野外アスレチックのような楽しみながら体を動かす施設もあります。また、「スキートンネル」は全天候型で年間を通して雪の上を滑走できます。そして、ユバスキラ大学、地元カヤニ大学とも連携し、スポーツ医学を活用したトレーニングによる、より高度で専門的なトレーニングニーズにも応えています。

ボカティの立地するソトカモ市は人口約1万5千人。そんな小さな市に何と年間100万人の方が世界各地から訪れま



市民使節団で視察した「ボカティトレーニングセンター」

す。その核となる施設がボカティ・トレーニングセンター。本市には、人口規模や、非常に似た自然環境と冬季スポーツ施設や学術的インフラもあり、今回の視察は大変参考になりました。冬季スポーツでのアスリート育成、冬季版ナショナルトレーニングセンターの誘致、合宿や関連産業など地域経済の振興、スポーツ全般の活性化と市民の健康増進を力強く進めていきます。

## バスケットボールのお話

スポーツといえば、私が学生時代にやっていた大好きなスポーツがバスケットボ

ル。NBAやBリーグの試合などをテレビ録画やインターネットでも見たり、バスケット部に所属する高校生の息子の試合も時間があれば応援に行きます。

Bリーグ富山グラウジーズには名寄市出身の大塚裕士選手が所属しています。3ポイントシュートを得意とするモールフォワードで、2017-18シーズンのオールスターゲームでは、ファン投票第1位。人気と実力を兼ね備えており、本市の観光大使にもなっていたいております。

2018年の10月、本市の伝統芸能「風連獅子舞」の発祥でもあり、私の祖先の出身地でもある、富山県南砺市を訪問する機会がありました。その際には、全国青年市長会のご縁もあり、田中幹夫・南砺市長に大変お世話をいただき、本市のルーツをくまなく自らご案内いただきました。何とその夜には、Bリーグの富山戦が富山市で開催しており、田中市長のご配慮で、試合の座席まで用意していただきました。全国青年市長会の夏野元志・射水市長とも合流して、市長3人最前列でグラウジーズ戦を観戦。迫力あるプレーは圧巻、チームも見事勝利を収めました。試合後の懇親会には市長3人と大塚選手に加え、地元南砺市出身の水戸健史選手も合流。役得でした。

さて、市民みんなでスポーツをと言いなから、自らの運動不足も解消しなくては説得力がありません。そんなわけで、ランニ



南砺市長(右から4人目)、射水市長(左から2人目)、大塚選手(中央)、水戸選手(左から4人目)とともに(筆者、右から3人目)

ングイベントなど、各種スポーツ大会にはできるだけ参加するように心掛けています。毎年行われる市民バスケット大会にも欠かさず出場しています。チーム名は何と「籠人クラブ」。市役所OBや幹部など、ベテラン中心のチームで最高齢はなんと64歳、私は48歳でかなり若い方です。しかし、学生時代の思い描くイメージと体力とのギャップは年々広がるばかりで愕然とします。来年こそは、事前に練習をして、少しでも自らの理想に近づけるプレーができるよう、時間を取りたいと思います。でも最大の楽しみは何ととっても、試合後の懇親会ですね。